



# 複合的危機における 地域社会の安全・安心

## ～これからの地域社会のあり方を考える～

常磐大学は、本年創立 40 周年を迎える節目に、国際シンポジウム「複合的危機における地域社会の安全・安心～これからの地域社会のあり方を考える～」を開催いたします。

グローバル化の進展とともに、私たちの社会は、連鎖して増幅する複合的な危機にさらされるようになりましました。新型コロナウイルス感染症の蔓延は未曾有のパンデミックとして広く社会不安を募らせ、その社会・経済への影響は今なお各地に色濃く残っています。一方で、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻に端を発する世界の分断は、資源や食料の高騰となって市民生活を圧迫しています。気候変動など、従来の環境課題への対応が遅れるなか、多発するサイバー・テロ、犯罪が世の中の先行きに暗い影を落としています。

本シンポジウムでは、基調講演と 2 つのセッションを通して、複合的危機の下でのレジリエンス強化の必要性を議論し、海外での事例も交えながら、様々な脅威に対峙し、安全で安心できる地域社会を構築するための方策を検討します。本学関係者のみならず、地域の皆様にも是非ご参加をいただければ幸いです。



学長 富田 敬子

- ◇ 日 時： 2023 年 9 月 19 日 (火) 10 時 00 分～15 時 30 分 (受付 9 時 20 分～)
- ◇ 会 場： 常磐大学 Q 棟 センターホール 水戸市見和 1-430-1
- ◇ 参加費： 無 料 (会場参加・オンライン参加) 参加申込方法は、裏面をご覧ください。

※プログラムの一部のみに参加いただくことも可能です。

※英語での発表には、翻訳アプリによる日本語訳が表示されます。

アプリによる翻訳のため、正確な訳とならないことも想定されます。あらかじめご了承ください。

### プログラム

【10 時 00 分～10 時 15 分】開会式

【10 時 15 分～10 時 40 分】基調講演

「複合的危機下の世界—国連が直面する試練—」

ステファン・シュヴァインフェスト Stefan Schweinfest 氏 国連本部経済社会局統計部長

【10 時 50 分～12 時 30 分】セッション 1 地域社会の安全

- ・特別報告「茨城県の治安情勢と警察の対応」(仮)  
藤野 秀彦 氏 茨城県警察本部警務部長
- ・「韓国におけるコロナ禍の犯罪動向」  
カン・ギョンレ 姜 暎來  
韓国・大邱カトリック大学社会科学部警察行政学科教授
- ・「更生を阻害する社会的要因～地域社会が果たすべき役割」  
山梨 光貴 常磐大学総合政策学部法律行政学科助教
- ・「インドの犯罪被害者支援～ジェンダーに基づく犯罪に焦点を当てて」  
M・スリニバサン M. Srinivasan  
インド・マドラス大学犯罪学科長・教授

【13 時 20 分～15 時 00 分】セッション 2 地域社会の安心

- ・特別報告「複合的危機がもたらした  
市民生活への影響と水戸市の子育て支援」  
高橋 靖 氏 水戸市長
- ・「コロナ禍での地域保健医療サービスの変容～フィリピンを例に」  
ニール・M・マーティン Neil M. Martin  
フィリピン・ミンダナオ州立イリガン工科大学保健科学部助教
- ・「複合的危機における人材育成」  
柴原 宏一 常磐大学人間科学部教育学科特任教授
- ・「自殺念慮を抱える人々への支援に向けて」  
小森田 龍生 常磐大学人間科学部現代社会学科准教授

【15 時 10 分～15 時 30 分】大会提言・閉会式

このシンポジウムは、G7 茨城水戸内務・安全担当大臣会合推進協議会との連携事業として実施されます。

主 催： 常 磐 大 学

後 援： 茨城県、G7 茨城水戸内務・安全担当大臣会合推進協議会、茨城県警察本部、水戸市 ※申請中を含む



**基調講演** ステファン・シュヴァインフェスト *Stefan Schweinfest* 氏 国連本部経済社会局統計部長

パリ大学にて数理経済学修士号取得。1989年、ニューヨークの国連本部経済社会開発局入職。主に統計分野において、長年、世界的な統計情報の整備、統合、国際標準化に取り組む。とりわけ、世界の地理空間情報の管理と統計能力向上プログラムの構築に尽力した。2014年、統計部長に就任。以降、世界中から国家統計機関長が集まる国連統計委員会を、書記長として束ねている。また、SDGs達成に向けた進捗状況を計るための指標の策定、モニタリングの枠組み作りにおいてもリーダーシップを発揮した。

**【セッション1】 地域社会の安全**

**藤野 秀彦 氏 茨城県警察本部警務部長**

平成2年(1990年)警察庁入庁。平成12年(2000年)4月から2年間在ベトナム日本国大使館二等書記官、平成14年(2002年)4月から在カナダ日本大使館二等書記官。平成16年(2004年)5月警察庁国際テロリズム対策課付・課長補佐。その後、京都府警察本部公安課長、警察庁警備企画課課長補佐、内閣衛星情報センター、沖縄県警察本部警務部参事官、愛知県警察本部警備部長、警察庁公安課理事官、警察庁警備指導室長、等を歴任。令和5年(2023年)7月より現職。

**カン・ギョンレ 姜 暻來**

**韓国・大邱カトリック大学社会科学部警察行政学科教授**

中央大学大学院法学部刑罰学専攻修了。法学博士。専門は刑事法、犯罪学、被害者学。有斐閣『判例刑法総論』(2009年)の韓国語版『日本刑法代表判例(総論)』を出版(2014年)。韓国少年政策学会、韓国社会安全犯罪学学会、韓国法学会の副会長、また韓国矯正学会、韓国保護観察学会の常任理事等、学術団体の役員多数。韓国法務部(法務省)の人権教育講師、少年犯罪、再犯防止、犯罪者の更生、の分野で研究・教育、論文執筆に取り組む。



**山梨 光貴**

**常磐大学総合政策学部法律行政学科助教**

専門は犯罪学・刑事政策。博士(法学)。罪を犯した人たちの社会復帰プロセスに関する研究を中心に、性暴力被害の実態調査やコロナ禍における犯罪傾向の実証研究などに携わっている。犯罪・非行を研究する若手研究者ネットワーク(ECCRN)キャリア役員(2023年4月〜)。中央大学法学部副学長教育課程・インストラクター、日本比較犯罪研究所リサーチアシスタント、日本歯科大学片岡歯学部などを経て2022年より現職。



**M. スリニバサン M. Srinivasan**

**インド・マドラス大学犯罪学部長・教授**

専門は犯罪学、被害者学。マネーロンダリングの研究で、独・マックス・プランク学術振興協会のフェローシップを2度受賞。Victim Support Asia 創設メンバー兼理事。インド被害者学会副会長、インド犯罪学会執行委員。ユニセフ、インド政府内務省、インド政府国際女性委員会、タミル・ナドゥ州政府等から23の研究プロジェクトを受託。被害者支援の制度設計や刑事司法改革に国内外で精力的に携わる。



**セッション1 モデレーター**

**千手 正治 常磐大学総合政策学部法律行政学科教授**

専門は犯罪学、被害者学、刑事法。『国外国の修得的司法』中央大学出版部(2004年)、『演習ノート刑事政策(第10版)』法学書院(2010年)、『高層建築物の総合的リスク』風間書房(2021年)等を共著。日本の刑事政策や被害者支援制度のほか、ニュージーランド事例にも精通し論文・発表多数。警察官等公安職を目指す学生に勉強会を主催。熱のある指導に定評がある。公益社団法人いばらき被害者支援センター理事。



**【セッション2】 地域社会の安心**

**高橋 靖 氏 水戸市長**



日本大学新聞学卒業。明治大学大学院政治経済学研究所修士課程修了。1995年水戸市議会議員当選(3期)、2005年茨城県議会議員当選(2期)、2011年水戸市長選当選。「安心できる暮らしの実現」を政治理念に現在4期目。これまでの取り組みをさらに発展させ「水戸 Next Mission」として5つのプロジェクト、73の施策を推進。常磐大学客員教授。著書に「水戸市役所『みとの魅力発信課』(ぎょうせい(2014年))、『実践・市民とつくる公共政策一持続可能なまちづくりをめざして』ぎょうせい(2018年)など。

**ニール・M・マーティン Neil M. Martin**  
**フィリピン・ミンダナオ州立イリガン工科大学保健科学部助教**

看護師・保健師、看護学修士号、ビジネス教育修士号を併せ持ち、ザビエル大学アテネオ・デ・カガヤン教育学部(ナガヤン・デ・オロシ)で教育学博士号を取得。メンタルヘルスや心理社会的支援に強い関心を持ち、地域住民の健康と文化の向上にリーダーシップを発揮。看護師の社会的地位や福祉の向上にも尽力。大学で教鞭をとりながら、現在、シラン大学(ドゥマゲテ市)で自身の看護学博士号の取得に取り組んでいる。



**柴原 宏一**

**常磐大学人間科学部特任教授**



公立高校教諭として勤務後、県教育委員会などで教育行政に携わり、最後は県教育長を務めるなど、教育全般にわたる幅広い経験を持ち、研究分野も教育制度、教育行政、教育法規、教員養成、教師教育、ICT教育、オンライン教育等多岐にわたる。現職は、茨城大学アドミッションセンター長として入学選抜の改革に取り組む一方、常磐大学の特任教授として、教員を目指す学生に子どもの将来を見据えた教育の大切さについて熱く説いている。

**小森田 龍生**

**常磐大学人間科学部現代社会学科准教授**

専門は過労死・過労自殺、性的少数者のメンタルヘルス問題等に関する社会学的研究。博士(社会学)。著書『過労自死の社会学—その原因条件と発生メカニズム』(2018年)により、日本社会学会賞・2019年度研究奨励賞受賞。専修大学社会知性情報研究センター・情報通信研究センター・リサーチアシスタント、学習院大学国際センターPD共同研究員、日本学術振興会・特別研究員(PD)・上智大学を経て2022年より現職。



**セッション2 モデレーター**

**会沢 紀子 常磐大学看護学部看護学科准教授**



看護師・保健師、看護学修士。専門は国際・災害看護。赤十字病院で病棟や手術室、地域医療連携室で勤務する傍ら、スーダンやアフガニスタンでの戦傷外科看護(赤十字国際委員会)や、イラン、スマトラ島、ハイチ地震後の救援復興事業(国際赤十字連盟)に携わる。2014年より獨協医科大学(地域看護学講師)、日本在住外国人の健康や災害時の備えの研究活動を行う。2022年より現職。

**大会提言 佐々木 一如**

**常磐大学総合政策学部総合政策学科准教授**

明治大学危機管理研究センター研究員、日本都市センター研究員、明治大学専門職大学院カバナンス研究科特任講師を経て現職。専門は行政学、公共政策論、危機管理論。非常事態発生時の行政組織の対応について研究を行ってきた。近年は、公的組織におけるリーダーシップのあり方についても研究を進めている。



**総司会 Kevin McManus**

**常磐大学人間科学部コミュニケーション学科准教授**

2007年、カリフォルニア州立大学プレズノ校の交換留学生として来日。帰国後、同大学大学院で英語教授法を専攻し修士号取得。その後再来日し、本学や筑波大学で国際交流や英語学習プログラムに従事。2016年常磐大学に教員として採用され英語科目やSDGsのプロジェクト科目を担当。共著に、国際市民として生きる—英語で学ぶSDGs実践入門(南雲堂(2021年))。

**参加申込方法**

- ❖ 参加には事前申込が必要です。参加ご希望の方は、右のQRコードもしくは専用HPから参加申込フォームを送信ください。
- ❖ 会場参加は、定員(50名)になり次第締め切らせていただきます。お車で来場される方は、常磐大学第8駐車場のご利用が可能です。駐車場の場所は、専用HPでご確認ください。
- ❖ オンライン参加の方は、YouTubeでのストリーミング配信をご視聴いただく形となります。オンライン参加をお申込みされた皆様には、9月15日(金)までに、配信のURLをお送りいたします。

参加申込締切： 9月12日(火) 17時00分

**参加申込 QR**



**専用 HP**



お問合せ先 常磐大学国際交流語学学習センター  
〒310-8585 水戸市見和1-430-1  
TEL : 029-232-2828 FAX : 029-232-3075  
E-mail : intlco@tokiwa.ac.jp